

6. 午後の部：講演会『『もったいない』の心でライフスタイルを見直そう』

ーリサイクルより優先順位の高い

「2R(リデュース(発生抑制)・リユース(再使用))」の取り組みの実践に向けての概要

岡山大学廃棄物マネジメント研究センター 松井 康弘

6-1. 開催概要

日 時：2012 年 8 月 7 日（火）13:30～16:45

場 所：岡山大学創立五十周年記念館

主 催：岡山大学廃棄物マネジメント研究センター

共 催：岡山市、岡山市エコ技術研究会

後 援：岡山県、廃棄物資源循環学会中国四国支部

参加者：111 名

6-2. プログラム

13:30～13:35 開会挨拶

岡山大学廃棄物マネジメント研究センター副センター長 藤原健史氏

13:35～13:40 講演会の趣旨説明

岡山大学廃棄物マネジメント研究センター准教授 松井康弘氏

13:40～14:00 「おいしいふくい食べきり運動 展開中！」

福井県安全環境部循環社会推進課主事 西本佳代氏

14:00～14:20 「あいあいねっとの取り組み」

NP0 法人あいあいねっと理事長 原田佳子氏

14:20～14:40 「減装（へらそう）ショッピングについて」

NP0 法人ごみじゃぱん事務局長 小島理沙氏

14:40～15:00 休憩

15:00～15:20 「リターナブルびん普及の現状と課題」

びん再使用ネットワーク代表幹事 中村秀次氏

15:20～15:50 「未来の子供達に美しい自然を残したい」

ユニー株式会社 環境社会貢献部チーフマネジャー 松井 淳氏

15:50～16:00 休憩

16:00～16:45 パネルディスカッション

「ごみの2R（リデュース・リユース）の取り組みの実践に向けて」

コーディネーター：松井康弘氏（廃棄物マネジメント研究センター）

パネリスト：講演者の皆様 と

稲見圭紅氏（岡山市エコ技術研究会理事）

福場信一氏（生活協同組合おかやまコープ 経営企画室）

村木智幸氏（岡山県環境文化部循環型社会推進課課長）

守屋博司氏（岡山県飲食業生活衛生同業組合理事長）

山田耕市氏（岡山市環境局 審議監） 50 音順

6-3. 講演会の概要

学官パートナーシッププロジェクトでは、一般市民や学生・児童を対象にエコライフ・エコテクノロジーの普及啓発を図るため、市民、環境団体、岡山市・岡山県、岡山大学の共同イベント「集まれ！市民のエコライフ&テクノロジー」を平成22年8月、平成23年8月の2回にわたって開催し、今年度も引き続き同イベントを岡山大学創立五十周年記念館にて開催した。

講演会は、同記念館大ホールにて開催され、まず岡山大学廃棄物マネジメント研究センター副センター長の藤原健史教授より開催挨拶、同センターの松井康弘准教授より講演会の趣旨説明があった。



引き続いて、全国各地で2R（リデュース（発生抑制）・リユース（再使用））を実践している行政・市民・事業者のそれぞれの立場から、取り組みの現状と課題等が紹介され、参加者との意見交換が実施された。

福井県安全環境部循環社会推進課の西本佳代氏からは、「おいしいふくい食べきり運動展開中！」と題して、福井県で展開されている地産地消の推進、家庭・外食での食べ残しをなくすための県民運動「おいしいふくい食べきり運動」の概要、背景、福井県民への呼びかけ・普及等の広報の事例、事業者との協力、ホテルでの持ち帰りメニューの試行等の具体例が紹介された。課題としては、長期間取り組む中での話題性の薄れ、食べきり運動の効果の把握・数値化等が挙げられた。



NPO 法人あいあいねっと フードバンク 広島原田佳子氏からは、「広島のフードバンク「あいあいねっと」の取り組み」と題して、食品企業の製造工程等で発生する規格外品を引き取り、福祉施設等へ無料で提供する「フードバンク事業」の概要が紹介



された。事業の世界・日本での実施状況、歴史と社会的背景、原田氏が理事長を務める NPO 法人あいあいねっとの概要、フードバンク事業の支援者・受益者・対象とする食品の種類と取扱実績（2008 年 5 月-2012 年 3 月で 58.4t）が説明された。課題としては、支援者と受益者のバランス、活動を実施する上での設備、行政の担当窓口の設置（生活保護課、教育委員会、地域振興課等）が挙げられた。

NPO 法人ごみじゃぱんの小島理沙氏からは、「減装（へらそう）ショッピングについて」と題して、製造・流通事業者等と連携した容器包装の減量に向けた取り組みである「減装（へらそう）ショッピング」の概要・考え方が紹介された。この取り組みは、商品の分類ごとに中味重量に対する包装重量の割合を示す包装指数を評価し、容器包装重量の小さい商品を「減装商品（へらそうしょうひん）」としてスーパー等でマークをつけ、生活者の行動を容器包装が少なくなる方向にサポートし、メーカーの包装をより少ない方向に導き、社会全体の容器包装の発生抑制につなぐことを目指したものである。



びん再利用ネットワーク 中村秀次氏からは、「リターナブルびん普及の現状と課題」と題して、同団体の概要、リターナブルびんの具体例とその環境負荷面での利点、学生・市民が主体となって開発した軽くて持ちやすいリターナブルびん「R ドロップス」、大学生が作成したリターナブルびんの CM・普及ツールの事例、町田市商店街・新宿区商店会と連携して実施したリターナブルびんのエコマネー（デポジット制度）の事業例が紹介された。



ユニー株式会社の松井 淳氏からは、「未来の子供達に美しい自然を残したい～持続可能な社会をめざして～」と題して、ユニー全店舗で実施されているごみの細分別とその減量効果、レジ袋の有料・ばら売り・トレイを使わない販売・食品を売り切って食品廃棄物を減量する工夫等の 2R の取り組み、サステイナブル原料であるバイオマスプラスチックを使用したトレイ・レジ袋の採用、スーパーの店長が主体と



なって取り組んでいる子ども環境学習の事例等が紹介された。

本講演会では、行政・市民・事業者・研究・学生のそれぞれの立場から 2R を実践するための考え方、具体的な取り組み事例等、多側面にわたって貴重な情報が紹介され、講演後には参加者・講演者から今後の 2R の実践に向けた質問がなされ、活発な意見交換が実施された。



パネルディスカッション